

研究目的並びに実施計画

主任研究者 北川 照男

昭和55年度の厚生省小児慢性疾患（内分泌、代謝、血液）に関する研究目的は次の通りである。

先天代謝異常症およびクレチン症の新生児マス・スクリーニングによって心身障害の発生予防に大きな効果を取めているが、その効果を一層高めるためにマス・スクリーニングのシステム化や新しい検査法の開発、その精度管理が必要であり、また発見された症例の早期治療効果を追跡調査することが必要である。更にその難治性のために医療費の公費負担制度がとられている小児内分泌、代謝、血液疾患、すなわち小児慢性特定疾患の実態を把握すると共に、その治療と予後を研究して一層効果的な生活指導並びに治療を可能とするのが、本研究の目的である。そこで、クレチン症、若年型糖尿病、先天性副腎機能障害、先天性代謝異常、カルシウム代謝障害、代謝性蓄積症、血友病および慢性血小板障害、口蓋裂による咀嚼障害をとりあげ、その調査研究を行い、治療効果を一層高めるための研究を行うのが、本研究の目的である。

各研究班の実実施計画は次のようである。

1) 慢性甲状腺機能障害の疫学と予後に関する研究

早期発見に関する諸問題を研究し、検査の精度管理を行い、実施状況の実態を調査すると共に、地域委員会との接触をはかる。またクレチン症マス・スクリーニングと要精検者の精密検査システムを確立し、発見されたクレチン症の病型診断基準、治療基準の設定に関する研究を行い、クレチン症の疫学調査をする。

2) 先天性副腎皮質機能障害の治療と予後に関する研究

その頻度は3万～4万人に1人でほとんどが21 hydroxylase deficiencyであることが明らかにされているが、その治療の現状と予後の調査を行い、病型診断基準と治療効果判定基準の設定に関して研究する。

3) 若年型糖尿病の生活指導指針（治療指針を含む）に関する研究

若年型糖尿病の実態を調査すると共に、治療方法と予後との関係に関する研究を行い、そしてその調査成績から治療指針の設定を試みる。

4) 代謝異常症等の新しいマス・スクリーニングの研究

先天性代謝異常症、内分泌異常症で治療の可能な者に対する新しいスクリーニング法を開発するための研究を行う。また、すでに実施されているスクリーニング法の改善をはかり、精度管理につ

いて研究する。またEIA法によるクレチン症のスクリーニング法の開発的研究を行い、先天性副腎皮質過形成症のスクリーニング法に関しても開発的な研究を試みる。さらにスクリーニングを…
層能率化するための自動化についても試験的な研究を行う。

5) 先天性代謝異常症の早期発見例の予後に関する研究

早期発見された例の治療の実態と予後に関して研究調査する。その成績をふまえて治療方法の改善をはかり、治療基準の改訂を行う。

6) カルシウム代謝異常症の実態に関する研究

カルシウム代謝異常症の疫学調査とその実態に関して調査し、カルシウム代謝異常症の診断基準を設定すると共に、各種負荷テストなどの診断法の標準化をはかる。またカルシウム代謝異常症の治療基準を設定するための研究を行う。

7) 血友病および慢性血小板障害の実態と治療基準の設定に関する研究

血友病、血小板障害症の実態調査と病型診断基準を設定し、保因者診断法の開発を試みる。凝固障害症、血小板障害症の治療基準を設定するための研究を行う。さらにそれに基づく血友病、血小板障害症の治療成績と予後を調査し、治療による副作用について研究し、予防対策を検討する。

8) 口蓋裂の歯科矯正治療術式と予後ならびに治療基準の設定に関する研究

口蓋裂の矯正治療術式並びに治療基準設定に関する研究、並びに咀嚼障害の判定基準の設定と予後に関する研究を行う。また矯正手術難易判定基準の設定に関する研究とその治療遠隔成績に関する研究を行う。

9) 代謝性蓄積症の実態と予後に関する研究

病型別診断基準を設定し、代謝性蓄積症の実態調査と予後調査を行う。また、各病型別の疫学調査並びに各病型別生活管理基準の設定について研究する。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



昭和 55 年度の厚生省小児慢性疾患(内分泌,代謝,血液)に関する研究目的は次の通りである。先天代謝異常症およびクレチン症の新生児マス・スクリーニングによって心身障害の発生予防に大きな効果を収めているが,その効果を一層高めるためにマス・スクリーニングのシステム化や新しい検査法の開発,その精度管理が必要であり,また発見された症例の早期治療効果を追跡調査することが必要である。更にその難治性のために医療費の公費負担制度がとられている小児内分泌代謝血液疾患,すなわち小児慢性特定疾患の実態を把握すると共に,その治療と予後を研究して一瞬効果的な生活指導並びに治療を可能とするのが,本研究の目的である。そこで,クレチン症,若年型糖尿病,先天性副腎機能障害,先天性代謝異常,カルシウム代謝障害・代謝性蓄積症・血友病および慢性血小板障害,口蓋裂による咀嚼障害をとりあげ,その調査研究を行い,治療効果を一層高めるための研究を行うのが,本研究の目的である。